

令和6年度第2回 国土交通省航空局 入札監視委員会 審議概要		
開催日及び場所	令和7年1月30日(木) オンライン形式による開催	
委員	委員長：橋爪 宏達（大学改革支援・学位授与機構研究開発部 教授） 委員：江川 淳（日本橋江川法律事務所 代表弁護士） 委員：平田 輝満（茨城大学大学院理工学研究科 教授）	
審議対象期間	令和6年4月1日～令和6年9月30日	
建設コンサルタント業務等	1 件	
役務の提供等	1 件	
工事	1 件	
地方官署工事・一般競争	0 件	
合計	3 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

(別紙) 委員からの意見、質問、それに対する回答等	
意 見 ・ 質 問	回 答
<p><b>【建設コンサルタント業務等】</b></p> <p>一般競争</p> <p>「既存技術を応用した CNS 高度化に関する要件調査」</p> <p>○競争参加資格の要件事項を満たす事業者は何社ほどあるのですか。</p> <p>○入札説明会等の状況を教えてください。</p> <p>○入札に参加しなかった理由は。</p> <p>○多様な調査内容が参加を見送った要因であれば、調査内容を分割するなどの発注改善は考えられますか。</p>	<p>○受注者以外には8社ございました。</p> <p>○入札関係書類を取りに来た社は7社で、近年受注実績があるのは9社ございました。</p> <p>○入札に参加しなかった社にヒアリングを実施しましたところ、仕様書の内容を精査した結果、CNS 分野の多様な調査内容になるために参加を見送ったとのことでした。</p> <p>○今回の発注は、現在導入していない技術をどのように導入し、さらに高度化を図っていくか、単に技術的に性能の善し悪しだけではなく、整備を行って運用していくところも考える必要があり、コスト、施設設置など整備に関わる部分や、運用、維持管理等も含めて考慮し、総合的に導入判断をしていく必要があったため、調査内容をまとめた経緯がございます。</p>
<p><b>【役務の提供等】</b></p> <p>一般競争</p> <p>「令和6年度ドローン情報基盤システムクラウドサービス等の提供業務」</p> <p>○入札説明資料や事前説明会等状況を教えてください。</p>	<p>○入札説明資料を取りにきた社は11社ございました。入札参加しなかった社にヒアリングを実施したところ、回答は9社からあり、そのうち3社は競争参加資格が満たしておらず、残</p>

<p>○従来からあったシステムも今回の受注者が行ったものなのでしょうか。もしそうだとアドバンテージがあったということになりますか。</p> <p>○3社が競争参加資格を満たさなかったことについて具体的に教えてください。</p>	<p>りの6社は情報収集のために入札説明書を入手したとのことでございました。</p> <p>○従来あったシステムも今回の受注者が受注しております。ただ令和4年度までの旧システムの作成については、大きく二つに分かれておりまして、飛行申請許可機能については今回の受注者が、飛行情報共有機能については別の事業者が請け負っておりました。令和5年度からのシステム作成については統合されて今回の受注者となっておりますので、けして今回の受注者だけにアドバンテージがあったわけではございません。</p> <p>○今回の競争参加資格につきましては、参加対象等級がA等級またはB等級となっておりましたが、入札説明書を取りに来た3社はC等級やD等級であったことから、我々の定める競争参加資格に対応していなかったということになります。</p>
<p><b>【工事】</b></p> <p>一般競争</p> <p>「システム開発評価・危機管理センター空港用航空機位置表示装置(APDU)設置その他工事外3件工事」</p> <p>○競争参加資格要件の実績ですが、航空交通管制情報処理システム等航空関係以外にも幅広く要件を設定しておかげで複数者参加できたということでしょうか。</p>	<p>○今回参加した社については、航空関係のシステム設置についても実績があったと承知しております。これまでの入札監視委員会でのご指摘も踏まえまして、間口を広げるという対応をさせて頂いていることから、複数者による入札となっていると考えております。</p>

<p>【抽出案件以外】</p> <p>「一者応札対応の状況報告」</p> <p>○一者応札の解決に繋げるため、事業者にヒアリングを行うわけですが、実際に参入がし易くなるようなコミュニケーションの図り方はどのようなものなのでしょうか。</p>	<p>○各社に対してヒアリングを実施しております、現状の課題等について聞いております。またこれとは別に年1回に参入の間口を広げるため、管制情報処理システムの説明会を、広く現行メーカーに限らず一般メーカーにも開催をしているところです。現状どういう課題があって参入しづらいのかなどの話を聞いており、今後も必要に応じてヒアリングしていくことも考えたいと思っております。</p>
<p>「公募型随意契約試行案件の進捗状況」</p> <p>○3件の他に行ってみたい案件のようなものがありますか。</p> <p>○コスト削減についてですが、コスト削減が限定的でも他の理由が公募型に移行できる理由もあるかもしれないとの理解でよいでしょうか。</p>	<p>○まずはこの3件のテストケースをしっかりと機能させてみて、どうあるべきかをしっかりと想えていきたいと思っております。その結果を踏まえまして、どう広げていくかということを全局的に見ながら、対象を広げるものがあるかどうかは今後検討して参りたいと考えております。</p> <p>○メリットの一つとしてコスト削減があると思っております。一方で調達方法として何が一番適切かというところも当然ございますので、コスト削減はメリットのひとつではありますが、それだけにとらわれずに全体的な議論は進めたいと考えております。</p>